



命を守るのが「命綱」  
薬は患者の命を救うもの  
死刑について考えてみませんか

東京拘置所のそばで死刑について考える会（そばの会）

東京都荒川区南千住1-59-6-302

<http://sobanokai.my.coccan.jp/>

コロナ・ワクチンの開発で注目を浴びるアメリカの製薬会社の大手、ファイザーですが、死刑のために自社の薬剤を使わせないという姿勢でも知られています。

2016年5月「米製薬大手のファイザーは13日、自社製品が死刑執行に用いられないように、流通を規制すると発表した。米国では、麻酔薬などの注射による死刑執行が一般的だが、死刑を廃止している欧州との関係などから製品の使用を拒む製薬会社が相次いでおり、ニューヨーク・タイムズによると、通常の流通ルートで執行のための薬物を購入することはこれできなくなる」（朝日新聞デジタル／ダラス＝中井大助）と報じられました。

この5月13日の声明は「製品は患者の命を救ったり、良くしたりするためだけに製造しており、極刑の執行で用いられることに強く抗議する」と述べています。こうした薬品メーカーの姿勢により、実際にアメリカでの死刑執行は困難になっているそうです。

もちろん、資本主義の大国アメリカでのごとくから、死刑を支持する世論（市場）よりも死刑に反対する世論（市場）のほうが大きいという計算をしているかもしれません。

☆☆★

現在、アメリカ50州のうち、22州が死刑を廃止しています。

1974年に作られたアメリカの劇映画にこんな場面がありました。

刑事に追いつめられた犯人が聞きます。

「この州には死刑があるのか？」

刑事は「死刑はない、大丈夫だ、安心しろ」と答えるのです。すると犯人は……

この映画の頃と比べても、アメリカの死刑廃止州は二倍近くに増えました。制度としては残っている州でも、2019年に実際に死刑を執行したのは8州にすぎません。

死刑廃止を指向しているバイデン氏が大統領選を制したことから、死刑廃止州が全米の過半数を占める日が近そうです。そうなれば全米が一気に死刑廃止に雪崩をうつだろうと予想する声もあります。

☆☆★

日本では、死刑の手段として絞首刑が用いられています。アメリカでは残酷だとされて使われていない方法です。

どんな会社が東京拘置所の刑場で使われるロープを納入しているのか知りませんが、「命綱」という言葉もあります。「当社の製品は命を奪うためには納入しません」……そんな声は出てこないのでしょうか。もしかしたら「市場」が広がるかもしれませんよ。（J）